札幌保健科学雑誌　第10号　1－6（2021）

総　説

大学教育におけるティーチング・ポートフォリオの活用

吉川ひろみ

県立広島大学保健福祉学部

ティーチング･ポートフォリオの概要と２日半で開催される作成ワークショップについて述べた．ティーチング・ポートフォリオは，教育の責任，理念，方法，成果，目標を記載した本文とエビデンスから構成される．簡易版として２時間半で作成できるティーチング･ポートフォリオ･チャートについても述べた．どちらも個人作業と他者との対話の時間が含まれている．ティーチング・ポートフォリオは，作成者の教育実践を見直し改善し続けるための手段である．自らの教育理念・方針と教育方法との整合性，エビデンスを意識化することにより，教育者としての成長が期待できるだけでなく，作成過程において教員間の連帯が生まれる．研究に焦点を当てて大学教員としての役割を記載するアカデミック・ポートフォリオ，職員が作成するスタッフ・ポートフォリオを加えることで，大学全体における改善や，地域における大学の価値を高めることができる可能性がある．

キーワード：ティーチング・ポートフォリオ，エビデンス，教育改善，省察

The usefulness of teaching prtfolio in university education

Hiromi YOSHIKAWA

Prefectural University of Hiroshima

This article describes an overview and workshop of the Teaching Portfolio carried out over the course of two and a half days. The Teaching Portfolio consists of the main part and evidence. The main part includes responsibilities, visions, methods, outcomes, and goals with pieces of evidence. The Teaching Portfolio Chart, a simple version of the Teaching Portfolio which can be completed in two and a half hours, is also described. There are sessions such as working individually and sharing with other people in both workshops. The Teaching Portfolio is one of the tools for reflecting the teacher's own educational activities and improving their practice. Teachers reveal their own visions, policies, and methods, then think about their connection and evidence present in their activities. They can develop as teachers and develop solidarity among participants through preparing the portfolio. Through adding the Academic Portfolio and the Staff Portfolio to the Teaching Portfolio, improvement of the university as an organization and enhancement of the value of the university in the community are expected.

Key words : teaching portfolio, evidence,educational improvement, reflection

Sapporo J. Health Sci. 10：1-6(2021)
DOI：10. 15114/sjhs. 10. 1

＜連絡先＞　吉川ひろみ：〒723-0053　広島県三原市学園町１番１号　県立広島大学保健福祉学部

ティーチング・ポートフォリオの概要

ティーチング・ポートフォリオ（Teaching Portfolio，以下，TP）とは，教育業績を記録した資料の集合体である[1]．1980年代にカナダで初めて用いられ，欧米の大学では，教員の採用・昇進・選考時に教育業績を評価する資料として使われている[2]．日本では2008年に，文部科学省の中央教育審議会の答申「学士課程教育の構築に向けて」において，教育業績の整理・活用例としてTPが記載され，緩やかに広まりつつある[3]．

日本のTPの特徴は，教育者としての自己の振り返りを中心とした教育改善の方法として広まっている点である[2]．TPは本文とエビデンスによって構成される．本文の内容例は表1に示した通りだが，項目を追加したり，順番を変えたりしてもよい．さまざまな学問分野の教員のTPの本文が公開されている[1][4]．

表1　ティーチング・ポートフォリオに含む内容

○本文（8〜10ページの文書）
- 責任：何を行っているか
- 理念：どのような考えに基づいて行っているか
- 方法：その考えをどう実現しているか
- 成果：その方法の結果，どうだったか
- 目標：これからどうするか

○エビデンス（本文の内容を裏付ける資料）

現在の日本では，2日半のワークショップに参加することにより，TPを作成することができる．スケジュールを図1に示した．メンタリングのセッションでは，TP作成経験がある者がメンターとなり，担当する作成者（以下メンティ）と1対1で話をする．メンターの役割は，メンティが自分の教育経験を振り返る助けになるような質問をし，そのメンティが参考にするとよいTPの例を提示することである．メンティが書き方を教えたり，指導したりすることはない．個人でのTP作成作業とメンタリングを繰り返すことで，メンティは，なぜ自分は教員をしているのか，何を求めて教育しているのか，どんな学生を育てようとしているのか，自分の教育の成果を何で判断できるかなど，自身の教育活動全体を深く考え，整合性のある説明を試みる．

1日目の宿題は，目次を完成させ，数ページ書くことであり，これが第1稿となる．2日目の宿題は，目次であげた項目すべてについて，何らかの記載をすることであり，これが第2稿となる．さらに3日目の発表のためのスライド1枚の資料（カバーページ）を作成する．3日目の午後には，5分程度で自分のTPの概要を発表し，他の参加者からの質問に答える．

ワークショップ終了後1週間以内に，本文とエビデンスの目次をメンターに送信する．エビデンスには，シラバス，学生の授業評価，教育関連の研修参加の記録などが含まれ，本文中には該当するエビデンスの番号が記載される．エビデンスは，本文とともにファイル（3.5センチ幅のリングファイル）に綴じ込み，3日目の発表時に使用したカバーページも追加して，TPが完成する．

	1日目	2日目	3日目
午前	事前課題 • スタートアップシート作成 • エビデンス収集	個人で作成	個人で作成
		メンタリング	メンタリング
		個人で作成	個人で作成
午後	オリエンテーション	個人で作成	
	メンタリング	メンタリング	発表準備
	個人で作成	個人で作成	発表，修了式
夜	意見交換会		
課題	第1稿提出	第2稿提出	1週間以内に第3稿提出

図1　ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップのスケジュール

ワークショップ参加者は，参加前にスタートアップシートを完成させて，メンターに送信する．スタートアップシートに記載する内容は，TP作成の目的，所属大学の教育目標，担当科目などの教育活動，教育方法や方針，準備できるエビデンスの一覧，教材開発など教育改善の実績，今後の目標であり，作成するのに5時間以上かかることもある．

ひとたびTPを作成しメンティを経験すると，メンターになる資格を得る．次のワークショップでは，スーパーバイザーのアドバイスを得ながら，メンターとしてメンティのメンタリングを行う．メンターは，ワークショップ前に担当メンティから送信されたスタートアップシートを読み込み，このメンティにふさわしいTP例を探す．ワークショップの1日目の午前中からメンターミーティングが始まり，メンティが作成作業をしている間にミーティングが繰り返される．メンターミーティングでは，情報交換しながら，各メンタリングセッションでの方針を決める．どこをより明確にする必要があるか，メンティのTP作成作業が進むような質問をどのようにするかといったことが，メンターミーティングで話し合われる．メンター経験豊富なスーパーバイザーは，さまざまなメンティのTP完成プロセスを知っているので，的確な助言をすることができる．

メンターは，メンティとは異なる分野から選ばれる．学問的な意見対立を避けるという理由もあるが，多角的視点を得たり，先入観なく内容の整合性を確認したりするときに，異分野の組み合わせが効果的なようだ．

3日目午後の発表会では，各メンティのカバーページを参照しながら発表と質疑応答が行われる．カバーページには象徴的なイラストなどがあり，個性あふれる内容には驚きと感動がある．TP作成ワークショップの3日間を共に過ごすことで，教員仲間としての絆も生まれる．組織としてTP作成に取り組むことにより，教育資料の共有と教員間の情報交換の機会が生まれ，組織全体としての教育の質の改善が期待できる．

筆者の経験

筆者は，学習プロセスの評価として，学生に学習ポートフォリオのファイルを作成させ，そのファイル持参での面接試験を行っていた[5]．何を学んだかがわかるように，学生は授業資料や学習記録を綴じたファイルを作成する．当時はTPの存在すら知らなかった．2008年にFaculty Development（以下，FD）の講演として，ポートフォリオを紹介してほしいと依頼された．そのポートフォリオが学習ポートフォリオではなく，TPだったと知った時には，断ることができない時期になってしまっていた．幸いにもPeter Seldinの著書[1]が翻訳されていた．数日間のワークショップで作成すると書かれていたが，仕方なく独力で丸一日と数日間の数時間をかけて，8ページ程度の本文とエビデンスを含むTPを作成した．もっとも時間がかかったのは，理念を書くことだった．「なぜ大学教員をしているのか」，「なぜ学生の前に立ち続けるのか」，この問いが何日も頭の中に去来した．過去の学生の授業評価の点数を書き出し，学生からのコメントや提出されたレポートを読み返した．どのような授業をしたのか，学生からの反応はどうだったのか，2008年の夏休みが終わる頃の数日間を，TP作成に費やした．

TP作成を終えると，自分が結構がんばっていることが形になった気がしてうれしくなった．日本作業療法教育学会（旧：日本作業療法教育研究会）の学術集会で演題発表したり，当時の学部長に自分のTPを見せたりした．すると2013年に，学部のFD活動推進事業として栗田佳代子先生を招聘して研修会を開催することになった．3時間半で，TPの概要の講演と後にTPチャートとして普及する簡易版TPミニワークを行った．27名の教員が参加し，22名が機会があったらTPを作成したいと回答した．そしてその年の12月に大阪府立大学高等工業専門学校（以下，府立大高専）で開催されたTP作成ワークショップに，本学から2名の教員が参加した．翌年の2014年の夏には，府立大高専からメンター兼スーパーバイザー2名を迎え，本学の教員もメンターになり，本学での第1回TP作成ワークショップが開催された[6]．そこで私は正式にTPを作成した．

事前課題であるスタートアップシートを作成するときに，所属大学の教育理念を初めてじっくり読みこんだ．私の教育理念とは微妙にずれていた．この大学で，このカリキュラムの中でできる教育を考える必要があることに気づいた．私を担当するメンターの専門は機械工学で，最初のメンタリングでは2008年に書いたTPの説明を求められ，「なぜ作業療法士なったのか」と聞かれた．当時すでに20年間の大学教員経験があった私の人生を，作業療法士を選んだ時点まで遡って考えることになった．高卒後の進路としてリハビリテーション学院を選んだ時代の社会状況，臨床実習での経験，急激な養成校の増加など，私自身の意思だけで教員になっていないことがよくわかった．このメンティとしての経験は，その後のメンターをするときに，大いに役立っている．個人のアイデンティティの中に，教員であることをどのように組み込んでいくかということが，首尾一貫した人生を送るうえで重要だと思う．

ティーチング・ポートフォリオは教育活動に焦点を当てるが，大学教員は教育以外にも，研究，学内外での役割がある．アカデミック・ポートフォリオ（Academic Portfolio，以下，AP）は，研究を中心に，教育，サービス活動（委員会の役割や地域貢献活動）を記載する．2014年12月に，筆者は府立大高専で開催されたワークショップで，APを作成した[7]．大学教員としての自分の価値を見出すことができた気がする．今まで乗り気でなかった仕事の中に，研究―教育―サービスをつなぐ重要な活動があると認めることができた．その一方で，自分の研究や教育と関係のない仕事が明確になった．自分の能力を生かせる仕事と誰かがしなければならない仕事を区別することで，エネルギー配分を考えやすくなった．自分の能力の何が，誰にとって有益なのかを考え，成果を確認しながら働くことができそうだと思った．

筆者が勤務する県立広島大学では，2014年以降昨年まで，毎年TP作成ワークショップあるいはTP更新ワークショップを開催している．TP更新ワークショップとは，1日で自身が作成したTPを見直し更新するもので，個人作業と参加者同士のペアワークで行われる．県立広島大学では大学教育再生加速プログラム（2014～2019年）の一部としてTP作成が行われ，今後もアクティブラーニングを推進するFD活動の一部として継続する予定である．

TPチャート

県立広島大学では2018年から，2時間半で実施するTPチャート作成ワークショップも開催している．TPチャートとは，図2に示すような1枚のシートに，付箋に書いて貼りながら，教育活動全体を俯瞰するものである[8]．TPチャート作成に必要な情報や資料はウェブサイトで公開されてい

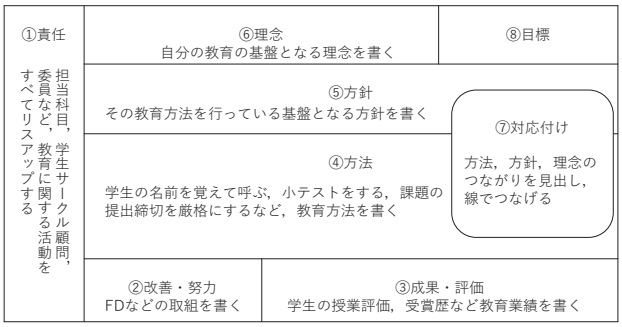

図2　ティーチング・ポートフォリオ・チャートの概要
（囲み数字の順に書き進め，途中ペアワークを行う）

る[9]．通常は，紙と２色の付箋を使い，個人作業と専門分野の異なる教員とのペアワークで完成させる．パワーポイントスライド１枚の中で仕上げるデジタル版もある．

TP チャート作成ワークショップでの手順に沿って説明する．まず右端の責任の欄に，担当授業科目や学生指導など，自身が行っている教育活動を一つの付箋に一つずつ書いて貼っていく．次に，反転授業やルーブリックなど新しい教育方法の導入や，FD 活動への参加など教育改善のために行っていることを書いて，下の改善・努力の欄に貼る．続いて，指導した学生が達成した目標や授業評価アンケート結果など，自分の行った教育の成果と考えられることを書き，下の成果・評価の欄に貼る．ここまで個人作業を行ってからペアワークでシェアする．ペアワークでは，話し手は自身の教育活動を相手にわかるように説明し，聴き手は興味をもって聴き，相手をしっかり受け入れる．相手の振り返りを深めるような反応や質問をしてもよい．

次に，複数の科目に渡って共通して行っていること，自分の教育を特徴づける方法を，付箋に一つずつ書いて貼っていく．小テストを行っている，授業時間を厳守する，学生の発言機会を作る，休み時間を一緒に過ごすなどが含まれる．続いて方針の欄に移り，自分はなぜ書き出した方法を行っているかの理由を書いて貼る．「小テストの実施」という方法は，「基礎知識の定着」という方針によるものかもしれない．方法の付箋の場所を移動させてグルーピングしながら，共通する方針の付箋との関連を考える．

さらに理念の欄に移り，その方針の基盤となる理念を書いて貼る．学生にどう成長してほしいか，教員としてどうありたいかといった問いの答えを探ることで理念を見出すことができる．その理念を持つようになったきっかけとなる人物や出来事があれば書いておく．そして，理念，方針，方法の順に対応を考え，付箋を貼り替えたり，グルーピングしたり，線を引いたりする．

２回目のペアワークでは，教育理念とそれを実現する方針・方法を相手に説明する．聴き手は聴くことに徹して受け入れるが，相手の振り返りを深める発言をしてもよい．

次に，責任，改善・努力，成果・評価，方法について，エビデンスがあるかを考えていく．エビデンスは TP のファイルに綴じ込める可能性のある資料である．教育活動にはエビデンスがないものが多いが，エビデンスを意識する必要性に気づくことができる．エビデンスを作ることが目的化しないように注意する必要がある．３回目のシェアでは，相手から気づかされたエビデンスについて，違う色の付箋に書いて貼っていく．

最後に，目標を違う色の付箋に書く．短期目標は，改善・努力，成果・評価，方法の欄の該当箇所に貼っていく．長期目標は，右上の欄に貼る．４回目のペアワークでは，理念と目標の説明と感想を話す．付箋の色の違いは，今までとこれからという時間の区別を可視化する．

大学教育における TP の意義

大学教育における TP の意義について，個人，組織，組織を超えたつながりの３点から考えてみたい．個人としては，TP を作成することで，教育者としてのアイデンティティが形成される．作業療法士として働きたいと思っていたのに，養成校の急増により大学教員になってしまい，あてがわれた担当科目の授業，求められる研究業績，学生の未熟な態度に押しつぶされそうだった筆者にとっては，TP は自分自身を見つめる貴重な機会になった．2013 年の講演で配布された TP のパンフレットに，ユングの言葉「Your vision will become clear only when you can look into your own heart…. Who looks outside, dreams; who looks inside, awakes.」が書かれていた．本当にその通りだと思った．外を見る人は夢を見る，内を見る人は目覚める．お手本になる人を見つけて憧れたり，真似をしようとしたりすると，自分の至らなさが見えるだけだが，自分がどこから今いる場所に来ているのかをしっかり見ることで，視界が明るくなる．

私がメンターを担当した英語教員は，親に決められた数か月間の英語圏への短期留学中に出版されたハリーポッターの最新刊を英語で読み，英語を通して世界が広がるという経験をした．別の教員は，母親の趣味のガーデニングの花の種から芽が出て，同じ花が咲くという奇跡との遭遇が，生物学研究の道に入るきっかけだったことに気づいた．真摯に TP を作成した個人は何らかの目覚めを経験する．

TP 作成ワークショップでのメンタリング，TP チャート作成ワークショップでのペアワークは，自分のことを振り返るための他者の視点を得る機会である．TP チャートのペアワークで筆者が書いた「効率性重視」という方針に対して，ペアの相手は「学生にもそれを求めているのか」と質問した．筆者はさまざまな場面で，短い時間で多くの成果があがるように工夫して行うように努力しているが，学生や他者が同じ方針を持つ必要はまったくないことに，その時気づき，衝撃だった．

メンターをした英語教員は，英語を教えることと英語を使うことを２本柱で行っていると話した．これを筆者の分野に応用すると，作業を通して健康を促進する専門家である作業療法士の育成と，作業を通しての自分自身の健康促進とを２本柱で行うことになる．これも新たな気づきであり，将来ビジョンの明確化に役だった．TP 関連活動の中で知ることのできる他者の視点も，個人の成長の糧となる．

TP は他の参加者と共に，ワークショップで作成することで完成する．そのため，個人の成長が期待できるだけでなく，組織としての改善も期待できる．県立広島大学では，3 キャンパスから教員が参加してワークショップを開催しており，2019 年には有志による TP 研究会を設立した．2020 年夏に開催予定だったワークショップはコロナ禍で中止と

なったが，研究会では毎月意見交換会を行っている．オンラインでの TP チャート作成ワークショップも検討中である．学科や専門分野が近い教員とは話すことはあっても，他キャンパスや他分野の教員と教育について話す機会はほとんどない．TP は分野を超えて教育について，各教員が何を目指してどんなことをしているかを知り合う機会となる．ワークショップにメンターとして継続して参加し，数年ごとに TP を更新することで，教員間の連帯も生まれる．初めはまったく共感できなかった教員の TP も，時間をかけて理解する機会があれば，徐々に共感できる部分が見つかる．TP ワークショップに参加している時点で，その教員の教育への熱意の中身を知る価値がある．

TP は組織を超えたつながりを生み出す. TPチャートは，大学教員だけでなく，中学，高校の教員にも活用されている[10]．TP チャート作成時に，筆者のペアとなったのは，高校の国語教員だった．ライティングを苦手とする生徒が多く，指導方法がわからない教員も多いことから，学内にライティングセンターを作ってイベントを企画したり，相談にのったりしているという．自己表現を躊躇する生徒の自己肯定感の低さを感じているということに，筆者は大いに共感した．教員が求める正しい答え以外を表出しようとしない学生の姿が思い浮かんだ．大学生よりも若い年代を含む青少年の自由で健全な育成に，貢献する活動の必要性を認識した．

大学職員が作成するスタッフ・ポートフォリオもあり，仕事観が明確になったなどという報告がある[11]．組織や上司から要請される仕事を，前例に従う方法で実施することしか許されない職場では，個人の理念や方針を生かした方法で行える仕事は少ないことが予測される．しかし，組織全体の理念や方針と個人の理念との一致点を見出せる可能性はある．よい教育，その大学で育成する理想の学生像といったビジョンを，メンバー全員で共有できれば，それぞれの活動を有機的に統合することができるだろう．この取り組みは，学外の関係機関にも広げることができる．メンタリングやペアワークには，異なる視点が有益なので，参加者の背景が多様であるほど，豊かな成果が期待できると考えられる．

オンライン教育の影響

TP チャートのデジタル版は以前から公開されていたが，コロナ禍により活用が増えたと考えられる．2020 年 7 月には，一人でも作成できる動画も公開された[12]．対面で行われる TP 作成ワークショップの個人作業のほとんどは，自分の資料を見直し，コンピュータに入力する時間なので，オンラインによる制約はない．メンタリングや情報交換会も，オンラインで実施可能だと考えられる．

TP で明確化した教育理念や方針に沿った教育方法のすべてが，オンライン教育で実施できるとはいえない．通信トラブル予防のために，マイクもビデオも停止して授業に参加する学生が多いなかでは，学生の反応をみながら授業を進めることは難しい．その一方で，ファイル共有や課題提出が確実にできるようになった．以前は事前視聴用のビデオを提示しても，見てから授業に臨む学生がほとんどいなかったが，オンライン授業になってからは事前視聴する学生が増えた．なかなかできなかった反転授業が，コロナ禍になって実現した．

教育方法が方針や理念を反映するかどうかは，学生の反応とセットで考える必要がある．小テストの成績や授業後の学生コメントなど，すぐに表れるエビデンスもあるが，学年が進行した後に学生から印象に残った授業として話を聞く場合もある．TP により習慣づけられた思考パターンを使用することで，オンライン教育も範疇に入れて，自身の教育を振り返りながら改善を続けることができる．

おわりに

教員として行っている活動を列挙し，教育方法を言語化し，その根底にある方針や理念を明らかにし，現在行っている教育方法の妥当性を裏付けるエビデンスを確認しながら，教育を改善していく方法として TP は有用である．TP の効果は個人の成長と組織の改善として表れるだけでなく，分野や組織を超えて，ビジョンに向かって活動する人々の連帯を促進すると考えられる．

引 用 文 献

1） Seldin P（栗田佳代子訳）：大学教育を変える教育業績記録 ティーチング・ポートフォリオ作成の手引き. 東京, 玉川大学出版部, 2007, p2-5

2） 大学評価・学位授与機構：評価結果を教育研究の質の改善・向上に結びつける活動に関する調査研究会報告書 日本におけるティーチング・ポートフォリオの可能性と課題 ワークショップから得られた知見と展望. 2009, http://www.niad.ac.jp/ICSFiles/afieldfile/2009/05/27/houkokusho_tp200903.pdf,（2020-11-04）

3） 栗田佳代子, 吉田塁：ティーチング・ポートフォリオ作成講座 本講座の概要とティーチング・ポートフォリオについて. 看護教育59：314-319, 2018

4） 大阪府立大学高専ティーチング・ポートフォリオ研究会：実践　ティーチング・ポートフォリオ　スターターブック. 東京, NTS出版, 2011

5） 吉川ひろみ, 酒井ひとみ：学習プロセスの評価:ポートフォリオ. 作業療法ジャーナル 38：173-178, 2004

6） 黒田寿美恵, 吉川ひろみ, 山中道代：教育改善活動を目指したティーチング・ポートフォリオの導入. 人間と科学：県立広島大学保健福祉学部誌　16, 69-76, 2016

7） 東田卓, 金田忠裕, 早川潔他：2014年アカデミック・ポートフォリオ作成ワークショップ報告. 大阪府立大学工業高等

専門学校研究紀要49：55-62, 2015
8） 栗田佳代子, 吉田塁：ティーチング・ポートフォリオ・チャートの作成. 看護教育59：404-411, 2018
9） Kayoko Kurita Lab：TPチャート. https://kayokokurita.info,（2020-11-04）
10） 栗田佳代子, 吉田塁, 大野智久：教師のための「なりたい教師」になれる本! . 東京, 学陽書房, 2018
11） 北野健一, 東田卓, 栗田佳代子：2016年度スタッフ・ポートフォリオ作成ワークショップ開催報告. 大阪府立大学工業高等専門学校研究紀要51：71-76, 2017
12） Kayoko Kurita Lab：動画をみてTPチャートを作成する. https://kayokokurita.info/post-578-2.html,（2020-11-04）